

戦争法案廃案へ夏の陣

空前のたたかいで違憲立法・戦争法案を廃案に追い込もう、と連日のように全国から飛行機、新幹線、バスに乗って数え切れない人びとが国会に押し寄せています。「総がかり行動実行委員会」が呼びかける国会前集会や国会包囲行動です。1万5000人が集会、デモ、国会請願行動に取り組んだ28日夜、廃案をめざす夏のたたかいに臨む決意を取材しました。

(秋山豊、前田智也)

国会前総がかり行動

小学校の息子と手をつないでコールする父親。子育てを始めればかりの娘と参加した女性。祖父母の戦争体験を繰り返さないと言語る青年。公明党に怒る創価学会員。衆参両院の議員面会所では、日本共産党や民進党、社民党の野党国会議員とのエール交換が続きました。

「父親として守らなくてはいけないものがある」。こういってデモ行進に出発した緑川達也さん(38)は、千葉県松戸市で4歳の娘を育てています。千葉土建の仲間と毎週、駅前で戦争法

「子や孫のために何もせずにはいられない」



「戦争法案を廃案に」と請願行動をする人たち=28日、東京都千代田区

二度と戦争をしてはいけない。できることをすべからずやって必ず廃案にさせたい」

憲法9条をデザインしたプローチを身につけた植木利子さん(74) 東京都町田市にも忘れられない記憶があります。終戦直後、小学校の遠足で初めて上野動物園に行ったときのことです。弁当を広げると戦災孤児が大勢寄ってきて、おとなが追い払いました。

「父親が戦死した友人もいました。街には傷痍(しやうい)軍人もいました。本心に大きな犠牲と侵略戦争の反省から日本国憲法はできませんでした。憲法と民主主義を壊す法案は廃案しかない」

名古屋市から新幹線で駆けつけた黒瀬杏子さん(58)は、31歳の娘らと初めて抗議行動に参加しました。

広島県出身の黒瀬さんには、戦後70年を迎える特別な思いがあります。「原爆慰霊碑にある『安らかに眠って下さい 過ちは繰返さないませぬから』という言葉を安倍首相はどう受け止めているのか。次の世代をとん

「運動や学習、広げたい」と高校生

でもない時代にならないため、何としても廃案にした」

創価学会員も参加

創価学会のシンボル三色旗を持って参加した学会員もいます。愛知県安城市の男性(51)は、戦争法案を推進する公明党に怒りを覚えます。「抑止力を高めてはいけないと教わってきた。いわれてきたことと違う」

「SGI AGAINST T FASCISM(創価学会インターナショナルはファシズムに反対する)」と書いたプラカードを掲げた横浜市の男性(61)もこの憤ります。「公明党を応援してきたのは平和への願いからです。いまは、裏切られた気持ちです。平和の精神を忘れ、自民党と妥協するなら与党にいる意味はない。法案を止めるために支持者らが行動を起こすことを願っています」

この夏、原水爆禁止世界大会に参加する高校生も参加していました。東京在住の吉岡実紀さん(16)です。抗議行動にかけつける前に国会中継を見ていました。安倍首相は、何ひとつ納得のいく説明をしませんでした。

「日本が他国に攻撃し、戦争に巻き込まれるかもしれません。法案の危険な内容を知れば賛成できるひとは少ないでしょう。戦争法案を廃案にする運動や学習を広げたいです」

来月30日に大行動

この日、同実行委員会の小田川義和氏は「毎週木曜の国会行動以外にも分野、世代を超えて広がる各地の運動を束ねるよう」に8月30日には10万人で国会を包囲し、全国でも100万人で決起しよう」と呼びかけました。

同実行委員会は、7月30日午後6時半から衆院第2議員会館前で戦争法案反対国会前集会に取り組みます。